

「あいさつの大切さ」

西中学校 1年 河原 柚希

「おはよう」

これは一日の始まりに、一番最初に言う言葉です。そして学校へ向かう時、家族に「行ってきます」と言います。しかし私が、朝に「おはよう」や「行ってきます」というあいさつができるようになったのは、最近のことです。

小学生のころ、私は地域の人に「おはよう」と言われても、恥ずかしくて、なかなか「おはようございます」と返すことができませんでした。時には誰にも聞こえないくらいの小さな声で返事をし、それであいさつをした気になっていました。

そして今年、中学生となり、新生活が始まった時、初めての自転車通学、初めての学校、初めての教室…。何もかもが初めてで、不安しかありませんでした。そんな中、私が学校へ行こうとしていると、小学生の時にいつも登校を見守っていてくれた見守り隊の方に「おはよう」と言ってもらい、私はものすごく元気が出ました。あいさつってすごいな…と改めて思った瞬間でした。しかし私は、頭を下げるのみで、きちんとあいさつを返すことができませんでした。その後すぐ、とても悔しくなり、「明日こそちゃんと返そう！」と思いました。そして次の日、また「おはよう」と言ってもらった時、私は勇気を出して大きな声で「おはようございます！」と相手の顔を見ながら、頭を下げあいさつをすることができました。その瞬間、その人はにこにこした笑顔になっていました。私のこれまでのもやもやした気持ちが晴れ晴れした気持ちになり、心がずっと軽くなりました。逆にこれまできちんとあいさつをすることができなかった自分が、とても恥ずかしくなりました。

その日から私は毎日、自分から相手に聞こえる声で、気持ちのこもったあいさつを心掛けています。ただただあいさつをしても、相手に聞こえていなければ意味はありませんし気持ちのこもったあいさつをしないと、相手もスッキリとした気分になれないと思います。

あいさつの大切さに気付かせてくれた見守り隊の方には、感謝の気持ちでいっぱいです。あいさつをされて不快に思う人はいないと思います。私はこの新居浜市は、あいさつと笑顔あふれる市にしたいと思います。

みんなであいさつをし合うことで、地域の人々は、お互いの顔や存在を認識することができ、住んでいる地域で安心して暮らせることにつながるのではないかと思います。そしてそれが、犯罪や非行防止、心のSOSに気付けるようになり、困った時に声をかけて助け合う関係になれば良いなと考えます。

自分からあいさつをすることは、人によってはとても勇気が必要なことも

しれません。しかし私は、あの時の経験から、あいさつを返さない自分はただただマイナスでしかなく、勇気を出してすることが、自分にとってもたくさんの良い所があることを学びました。まずは身近な家族、学校の先生や友人に「笑顔であいさつをする」を意識して取り組み、そしてみんなと一緒に笑顔とあいさつの輪を広げていきたいです。

だから私は、今日も心をこめて言います。

「おはようございます！」

「まわりの人が笑顔でいるために」

西中学校 2年 竹林 滯里

「非行少年」その言葉を聞いたとき、私と同年くらいの子どもが、どうして窃盗や薬物、闇バイトなどの犯罪に手を伸ばしてしまうのだらうという疑問を持ちました。

私の周りには、犯罪を犯している人や非行行動をしている人はいません。でも、少年犯罪についてのニュースは見たことがあります。例えばオレオレ詐欺や放火、もっと酷いものは、子どもが親の命を奪うというニュースです。どうして、人を傷つけたり、命を奪ったりしてしまうのでしょうか。そんな疑問について母と話をしてみると、「ありがとう」と言われました。それを聞いた私はなぜ「ありがとう」と言われたのか、意味がわかりませんでした。すると母が言いました。「誰かを傷つける気持ちがわからなくてよかった。」と言いました。そして母は「そんな気持ちがわからないくらい、あなたが幸せに感じていることがわかって良かったよ。」と伝えてくれました。それを聞いたとき、私はすごく幸せな場所にいることを実感しました。

そして、はじめから非行や犯罪を犯そうとしている人はいないのではないかともしました。子どもが非行に走る理由は、コミュニケーション不足や相談相手がなくて寂しさから、心に深い傷を負っているからなのではないのでしょうか。非行をしてしまった人は、本当は、みんなから認めてほしいと思っていたり、笑顔あふれる幸せな生活をしたいと思ったりしている人なのではないのでしょうか。だけど家庭環境の厳しさや、学校生活での苦しい立場など、今いる場所が幸せだと感じる事ができていない人なのかもしれません。

そう考えると、犯罪はすごく近くにあるのではないのでしょうか。例えば、違法薬物です。私は、小学校や中学校で「薬物乱用防止教室」の授業を受けました。違法薬物の使用前と使用後では、顔や体がボロボロになり幽霊みたいになってしまって、本当に同一人物なのかと思いました。そうなってしまっても、依存によってやめられない薬の怖さを知りました。そのような知識があっても、辛い思いをして心が弱っているときに、その場から逃げたい一心で薬に頼ってしまったのかもしれない。このことから、家族や学校、なにより友達、その環境が一つでも崩れてしまうと、犯罪の扉が開く可能性があります。そして一度犯罪を犯してしまうと、元に戻ることは難しいと思います。たとえそれを反省して社会に復帰しようとしても、人間関係は途絶えているし、偏見によってその頑張りがくじかれてしまうかもしれないからです。私はそういった偏見は持つてはいけないと思います。

そのようなことが繰り返されないようにするために一番大切なことは、自分

自身のあり方だと思います。私達は自分の意思を強く持ち、悪いことに対しては
っきり断ることが大切です。そして、周りの家族や友達が悩んでいれば、気付き、
相談される人に、私はなりたいと思います。みなさんも、辛いときや苦しいとき
は一人で悩みを抱え込まず、誰かに相談してみませんか。きっとあなたの助けに
なってくれるはずです。周りの人、自分自身を大切にできるような人が増えれば、
きっと明るい社会になっていくと思います。

「未来を紡ぐ」

西中学校 三年 田野岡 莉生

僕は小学三年生までコミュニケーションを取ることが苦手でした。声をかけることが恥ずかしかったからです。しかし、ある友達と出会って自分から声を掛けられるようになりました。このことがきっかけで友達はだんだん増えていきました。学校に行くと、たくさんの「おはよう」が聞こえてきて、とてもうれしかったことを今でも覚えています。今僕には、心を許すことのできる友達がいます。その友達と出会えたことも、始まりは挨拶からでした。

挨拶は、誰にとっても嬉しくて気持ちの良いものです。そして、コミュニケーションを取る一つの手段です。これは学校だけではなく、地域の人たちにも同様に言えます。僕はすれ違う人には、勇気を持って挨拶するようにしています。幼い時から挨拶の大切さを家族からも教えてもらっていましたが、これほど偉大なツールはありません。これはスポーツでも同じようなことが言えると思います。「礼に始まり礼に終わる」この言葉は、以前習っていた剣道で教わった言葉です。礼儀・礼節を持って試合に臨むことは勝敗よりも重要であるという意味もあります。言葉と共に相手を敬う気持ちが、そこには同時に必要になると言えます。気持ちの入った言葉こそが人を動かす力となり、心に届くものだと思います。

言葉にはプラスとマイナスの言葉があります。プラスの言葉は明るく、元気になる、ほめる、やる気が出る、感謝など、優しい言葉です。一方、マイナスの言葉は暗く、元気がなくなる、悪口、やる気なくなる言葉です。この間、ホームルームの時間に、マイナスの言葉をプラス言葉に変える授業をしました。普段は、言葉についてじっくり考えることはしてこなかったので、とても新鮮でした。自分の中で置き換えの簡単なものと難しいものがあり、友達と相談しながら進めていきました。自分では思いつかない考え方もあり、大変有意義な時間でした。伝え方によってプラスになる言葉が多く、言葉の知識を増やしたいとも思いました。言葉は使い方次第でプラスにもマイナスにもなるので、何気ない会話でも意識して使うようにしたいです。

コミュニケーションを取る上で大切なことは、他にもあると思います。僕が大事にしていることは言葉のラリーです。どちらかが一方的に話すのではなく、相槌や質問などで会話が広がるようにしています。一歩踏み込んで話を聞くことで、今まで相手の見えなかった部分を、知ることができるからです。そうすることで、会話の中で信頼関係が生まれると思います。だから僕は、相手のことをきちんと理解するために、しっかりと聞くことも大切にしていきたいです。

新居浜市を明るくするために僕にできることは、地域の人と豊かなコミュニケーションを取ることです。まずは、挨拶から始めて近所の人と顔馴染みとなっ

て、地域の行事にも積極的に参加して交流を深めたいです。プラスの言葉掛けと、相手の話を大切に聞くことを意識しながら、たくさんの人と言葉のラリーをして、温かな関係を築き、心を豊かにしたいです。そうすることで、周りの人が少しでも元気になってくれたら幸いです。そして、この輪が広がっていけば、犯罪などの悲しいことも減っていくのではないのでしょうか。豊かな心があふれる未来を、みんなと紡いでいきたいです。

「みんなの居心地の良い町へ」

角野中学校 1年 永易 桜子

私はこの新居浜を、みんなが居心地の良い町だなと思えたり、みんな親切だなと思われたりするような町にしたいです。

具体的にどうすればそんな町になるのか、三つ考えてみました。

一つ目は犯罪のない町にすることです。二つ目はみんなが親切でゆずり合えるような町にすること、そして三つ目はどこに行っても居心地の良い町にすることです。

まず、一つ目の「犯罪のない町にする」ためには、みんながいろいろなルールを守って、いつも安心して平和に暮らせるようにすることが必要です。よく犯罪や事件のニュースを見ることがありますが、みんなが自分のことばかりを考えて行動するのではなく、みんなのことも考えて行動すれば、安心して過ごせる町、誰もが行ってみたいくなる誇りに思える町になると思います。悪いことを考えず、善意のある考え方をすると良いと思います。

二つ目の「みんなが親切でゆずり合えるような町にする」ためには、みんなが支え合って協力し合える、信頼できる人のあふれる町にすることが必要です。信頼できる人を作るには、まずはたくさんの地域の人と知り合って、話をすることが必要です。

今新居浜市では、いろいろなイベントが計画されています。冬のたこ揚げや春の歩け歩け大会、秋の新居浜太鼓祭り、冬のあかがねマラソンなどです。私は、小さいころにたこ揚げに参加したことがありますが、毎年参加しているのは何といっても、「新居浜太鼓祭り」です。大好きです。いつも太鼓台を担いでいる人たちの情熱に圧とうされますが、見ている人たちも一緒に楽しむことができます。お祭りの前には準備や練習をあり、多くの人たちが、毎晩話合いながら、みんなが楽しめる祭りにするために頑張ってくれています。新居浜以外の観客も多く、誇りある地域のイベントだと思います。これからもずっと伝統をつないでいきたいと思います。

また、地域でもたくさんの行事があります。校区運動会や、文化祭などです。このようなイベントがあると、みんなとふれ合える時間ができます。いつもは話すことがなかった高齢者や小さい子も参加しているので、たくさん交流ができます。バザーで買い物をしたり、そこでみんなと一緒に食べながら、話をしたりして、楽しめるイベントも多く、相手のことを知って、もっと仲良くなって、信頼感が生まれます。新しい知り合いができます。

「とうどおくり」に参加したときは、地域のいろいろな方とふれ合うことができ、その中で昔のくらしの様子を聞くことができたり、角野校区の知らなかった

話を教えてもらったりでき、楽しい時間が過ごせました。

あと一つ、私のおすすめは、自分の住んでいる地域の人だけではない、他の地域の人とも交流ができる習い事を選ぶのもよいと思います。知り合いがたくさんできるからです。

三つ目の「どこに行っても居心地の良い町にする」ためには、まずはあいさつが大切です。近所の人に自分からあいさつをする、友達にも自分からあいさつをするなど、あいさつが行き交う町にしたいです。あいさつをされて、いやな顔をする人はいないし、みんなが笑顔になると思います。笑顔があふれる町はとても居心地がいいと思います。

私は、他の地域から来た人からも「いいなあ」と言ってもらえて、真似したくなるような新居浜、自分も楽しく、みんなも楽しく、「この町に住んでいてよかったなあ」と思える新居浜に、これからも住みたいと思います。

「まあいいか」

角野中学校 2年 石川 稟琉

誰かの役に立ちたい。これは誰もが思うことだと思います。私もそう思ってきました。でも、行動に移すことはとても難しいです。

今まで私は、誰かの役に立てるチャンスを目の前にしても、「まあいいか」と思ってきました。「まあいいか」は、心が軽くなる言葉です。例えば、町の奉仕活動ボランティアの募集を見かけた時。最初はどうかと迷います。けれど周囲を見渡すと誰も参加希望をしていません。「みんなやらないって言っているし、自分だけするのはちょっと……『まあいいか』。」そこには、こんな気持ちも含まれています。「みんながやらないなら、私一人がやってもやらなくても、何も変わらない。」

またある時は、すれ違った見知らぬ人が物を落としてそれに気が付いていなくても、話しかけることをためらってしまいました。もし声を掛けて、嫌な顔をされたらどうしよう……。お互いに嫌な気持ちになるなら、話しかけなくても「まあいいか」私の代わりに誰かが声をかけるだろう。

そんなある日、母と出かけることがありました。一緒に歩いている時、小さな子供を連れのお母さんとすれ違いました。子供が何かを落としましたが気付いていません。私の中の「まあいいか」が出てきそうになったその時です。隣にいた母が、さっと落ちたものを拾い、子供のお母さんに声を掛けました。

「落としましたよ。」

相手の方は、とても助かった表情で、

「すみません、ありがとうございます。」と返していました。お互いに笑顔になって、見ているだけで心が温まりました。

これをきっかけに、私も母のように行動に移したいと強く思うようになりました。私一人の行動でも、誰かの役に立つことはできる何かを変えることができる。「まあいいか」をやめて、私も母のようにすぐ行動ができる人になりたい。

そしてついにそのチャンスが訪れました。お店で、私の後ろに並んだ人が物を落としたのです。私は勇気を出して声を掛けました。

「落としましたよ。」すると相手の人は、はっとした表情になり、そして「助かった」という顔になって、

「ありがとうございます。」と言ってくださいました。人の役に立てたことが誇らしく、うれしい気持ちになりました。これからはもっと周りを見て、自分にできることをやっていきたい。それと同時に思いました。もし、私だけでなく、もっと大勢の人が「まあいいか、誰かがやるだろう。」ではなく、人のために動けるようになれば、お互いに支え合える素敵な関係がたくさん生まれるのではな

いか。

誰でも、自分の身内に対しては、ためらうことなく行動し、手助けができるでしょう。その意識をそのまま新居浜市の仲間に向けていけば、新居浜市の中の笑顔が今以上に増えるのではないのでしょうか。私の経験からも「まあいいか」は、心をモヤモヤさせます。時には後悔することにつながります。新居浜市から「まあいいか」を一つでもなくしていきませんか。あなた一人、私一人の小さな行動でも、周りの誰かを、笑顔にしたり安心したりさせることができると思います。

「地域のぬくもり」

角野中学校 3年 大政 白空

私はかつて地域の人と関わることを難しく考えていました。そんな私でも中学校になると地域の人と関わるが増えていきました。地域の人と関わるということは、ボランティアや地域のイベントだけではありません。日頃の挨拶や会話こそが地域との繋がりだと私は思います。私が、このように思い始めたのは中学一年生になった時からです。

新しい家に引っ越した時のこと。私は新しい地域の人々の雰囲気になれませんでした。近所の子とも歳がはなれていたので、馴染めずに過ごしていました。地域の方は、優しい人が多かったのですが、私は警戒心がなかなか解けなかったのです。

地域の人と、しっかり関わるができるようになったのは、二年の夏の頃でした。二年生になった私は、家の手伝いで朝早くからゴミ捨てに行っていました。早起きや外に出るのが嫌で最初は面倒くさいと思いながら行っていました。ところが、ある時ゴミ捨て場の近くに住んでいるおばあさんに

「毎朝早くにゴミ捨てなんて偉いね。」

と声を掛けてもらいました。その一言が私のゴミ捨てを続ける理由となりました。そのおばあさんは会った時には話しかけてくれたりゴミ捨てを手伝ってくれたりしました。一番初めに、しっかり関わるようになったのは、そのおばあさんでした。おばあさんが、地域の人とよく話していたり、農作業の手伝いをしたりしているところを見かけて私も、おばあさんみたいに地域の人と関わっていきたくて思いました。私が地域の人と深く関わるために最初に意識したのは挨拶でした。挨拶なら気軽にできて、相手も自分も良い気持ちになります。少しずつコミュニケーションをとっていきたくて私にはぴったりでした。それから、学校に行く時や犬の散歩の時など、挨拶を毎日するようにしました。忙しい時でも忘れずにして、時間がある時には一緒に話すことで深く関わることができました。次に意識したことは、笑顔でいることと、関わろうという気持ちを持つことです。私は、嫌なことがあると顔に出てしまって人に嫌な思いをさせてしまうことがありました。そんな自分を変えたくて「笑顔でいる人には話しかけやすい」という言葉を思い出しどんな時も笑顔でいようと思いました。笑顔でいると、話しかけてもらえることが増え、笑顔も褒めてもらえるようになりました。最初は地域の人と関わろうという気持ちがありませんでした。しかし、関わろうという気持ちを大切にして過ごしてみると、引っ越した時よりもいろいろな人と関わるようになりました。馴染めずにいた近所の子たちとも今では会った時に話すことができます。歳も全然違う人と関わることは難しいと思っていたけれ

ど、実際は自分がそう思っただけで、簡単なことでした。自分から地域の人と関わろうとする気持ちを持つことが一番大切でした。おばあさんとの出会いがあったおかげで、私は毎朝元気に学校に行けています。

地域の人と関わることを難しく考えている人もいるかもしれませんが、しかし、そう消極的にならず、笑顔で関わろうという気持ちを持ってほしいと思います。関わるのが苦手な人は挨拶からでも良いので始めてみてほしいです。私は、地域の温かさを知ることで、日頃から人と楽しく話せたり、良いことがありました。私が感じた地域の人々の温かさを少しでも皆が知って、皆も同じようにこの温かさを感じてくれると嬉しいです。これからも私は、地域の人を大切にしてこの地域で育っていきたいです。

「人は変われる」を信じて」

泉川中学校 3年 佐藤 凜果

「過去に犯罪をしてしまったことがある」

「家族に犯罪をしてしまった人がいる」

このような言葉を聞いて、あなたはまず初めにどのような印象を受けるでしょうか。おそらく良い印象を持つことはないでしょう。それどころか、「そんな人と関わるのはやめておこう」とさえ思うかもしれません。

私は、犯罪や非行のない明るい新居浜市をつくっていくためには、罪を犯した人を取り締まって処罰して終わり、ではいけないのではないかと思います。どんな理由があろうとも犯罪はいけないことに変わりはないし、然るべき罰を受けることは仕方がないことです。しかし、本当にそれで終わりでいいのでしょうか。

例えば、罪を犯してしまった本人は反省し、これから心を新たに社会へ復帰しようとしたとします。けれど、進学や就職などにおいて、「過去に犯罪を犯した」という事実は決してなくなり、大きな大きな足枷となります。本人だけではありません。両親や兄弟をはじめとした家族や周囲の人たちだってその影響を受けます。何の罪も犯していない人までも差別されてしまうことだってあるのです。もし、自分が「過去に犯罪を犯してしまった人の家族」という立場に立ったとき、自分の未来への道が狭くなっていくことに「仕方がない」「当たり前のことだ」と素直に受け入れることができるのでしょうか。きっと少なからず不安や辛さ、やるせなさを感じると思います。私は実際にそのような経験をしたことはありません。だから、当事者の方たちの気持ちをすべて理解することはできないのかもしれませんが、ですが、それが、私たちにできることがない、というわけではないはずです。

私は、犯罪を犯してしまった人やその周囲の人を新居浜市が一体となって温かくサポートしていくことが当たり前な街になることを目指していきたいです。

では、具体的にはどのようなことをすれば良いのでしょうか。

現在、愛媛県には、再犯防止と更生を目的としたサポートセンターや支援団体が存在します。中学生である私が今、実際このような団体に関わって支援することは難しいかもしれません。それでもまずは、私たちが、「人は必ず変われる」ということを信じて接することが再犯のない町への第一歩だと思います。理解者を増やすために実際に話を聞くことも、当事者理解につながります。また、当事者の孤立を防ぐために一人一人が周囲を巻き込みながら接点を大切にすることも必要だと考えます。

一度犯してしまった罪をなかったことにはできません。それでも、これからの未来はその人次第でいくらだって変えることができます。今この瞬間にも、自分

を変えようとしている人がいます。もう一度人生を歩み直そうと足を踏み出した人がいます。私はそれを受け入れて信じたいです。

「罪を償ってやり直せる。その周囲へ何の差別もない。」それが当たり前の町になって初めて、本当の意味での「犯罪や非行のない明るい新居浜市」を実現できるのではないのでしょうか。

私にできることは、「人は変われる」と信じることです。その思いを多くの人々と共有し、誰もが幸せな新居浜市で、これからもずっと過ごしていきたいです。

「犯罪や非行をなくすには」

泉川中学校 三年 白石 怜愛

私たちが安心して生活できる社会。その安心や安全を妨げる犯罪や非行。みなさんは、犯罪や非行がなくならないのはなぜだと思いますか。

私が、犯罪や非行がなくならない理由として考えられることは、多くの人が、犯罪や非行をしている人だけに問題があると考えてしまっていることに原因があるのではないかということです。私自身も以前はその中の一人でした。なぜ、わざわざ犯罪や非行に手を染めるのか。なぜ、わざわざ不幸せなことをするのか。私には、とうてい理解できるものではありませんでした。

私が犯罪や非行について調べているとき、犯罪や非行をしてしまう主な原因は何かという記事を見つけました。その記事には、犯罪や非行の主な原因として、それぞれの性格や考え方のほかに、「その人が育ってきた環境や周りの人の影響も大きい」と書かれていました。私は、この記事を読んだとき、納得というよりも驚きのほうが大きかったです。私には、そういった考え方があることも知らず、私自身がそう考えたこともなかったからです。しかし、記事を読み進めていくうちに、「なるほど、そういうことか。確かにそうだな。」と共感や納得をすることができました。

犯罪や非行をした人と同じ性格や考え方の人がすべて、犯罪や非行をするわけではありません。ではなぜ、犯罪や非行をする人とならない人に分かれていくのでしょうか。その違いは何か。それはやはり、「環境や周りの人、さらにその人たちが過去に経験したこと、されたことを踏まえて感じたその人の感情」が挙げられるそうです。その人自身の問題だけではなく、その人自身が変えたくても変えられなかった育った環境、過去にその人自身がされたこと、その人自身の運命的なものも原因となるのです。

私がこれまでニュースを見てきて、犯罪や非行をした理由に共感できたものもいくつかあります。私自身が同じことをされたら腹も立つし、何らかの行動をしたとしても仕方がないなと思うものもありました。犯罪や非行をしてしまう原因は、そこまで複雑ではなく、単純です。つまり、犯罪や非行をしてしまうきっかけは、だれにでも起こり得るものなのだということが分かりました。

では、犯罪や非行をなくし、防ぐために必要なことは何でしょうか。運命なんて変えられるはずもなく、過去も変えることはできません。道を踏み外しそうになった時、正しい道に戻してくれるのは何でしょうか。それは、その気持ちに寄り添ってあげる誰かの存在です。冷静さを取り戻し、気持ちを落ち着かせてくれる誰かの存在です。育ってきた環境や過去の経験は変えることができなくても、周りの人の影響は変えることができます。私たちが、誰かにどう接していくかを

考えることで、犯罪や非行を減らし、なくしていくことができるはずです。

みなさんも、自分の周りの人をよく見てみてください。困っている人、苦しんでいる人はいませんか。誰かが助けを求めていますか。

私には、困ったとき、苦しんだとき、悩んだとき、助けを求める頼れる存在がいます。それがきっと、私の人生に大きく影響を与えてくれる存在の人たちです。私自身が、誰かのそういった存在であれば、それは幸せなことです。誰もが安心して幸せに生活できる社会の一人として、これからも頑張っていきたいです。

「ドラマから学んだ加害者側の思い」

泉川中学校 三年 水谷 峰章

皆さんは、テレビドラマに夢中になったことはありますか？僕は今年の一月から放送されていたあるテレビドラマにすっかりはまってしまいました。そのドラマは、「犯罪」という言葉に対して、いまいちピンときていなかった僕に、考えるきっかけを与えてくれた人の心を動かす素晴らしいドラマでした。

このドラマとは、毎週日曜日に放送されていた『御上先生』というドラマです。主人公である「御上先生」が、犯罪を犯してしまった生徒の心の闇や、その犯罪を犯した生徒の母親が勤める学校の闇、その学校の生徒達の闇など、様々な悩みを少しずつ解決していく姿が描かれていました。そして、御上先生自身が抱えていた心の闇にも触れていくというストーリーでした。日常生活の中で、普通に起こっているけれど、あまり表には出てこないような問題がテーマになっていて、僕は、毎週考えさせられることばかりでした。

最初は、学園ドラマということに興味を持ち、何となく見てみただけでしたが、いきなりの展開に衝撃を受けました。

そのシーンとは、大学生くらいの女性が試験会場で、男性の背中をナイフで刺して、殺害してしまうというショッキングなものでした。僕はあまりの予想外の展開にびっくりして、心臓のドキドキが止まらなかったことを覚えています。

この瞬間、「もし、自分がその場に居合わせたとしたら、どうする？」「もし自分が被害者になっていたら、どうする？」といった考えが頭に浮かびました。

しかし、今、冷静になって振り返ってみると、「僕が加害者なら？」という考えは思いつきませんでした。それはなぜか？ドラマをすべて見終わったときに、その答えが何となく見つかったように思います。殺害という重い犯罪を犯してしまった女性と元教師であるその母親が面会をした時の会話の中に、そのヒントがありました。母親が娘に対して掛けた言葉。

「あなたにも殺人を犯してしまうほどの精神状態になる事情があった。」

もしかしたら、キーワードは「孤独」なのではないかという考えが僕の心に浮かび上がりました。ずっと一人で考えても答えが出ない、どうすればいいのか誰も相談する人がいない、「孤独」だったからこそ、普通の精神状態ではなくなってしまったのではないだろうかと考えました。

僕には、親や友達、先生など相談できる相手がたくさんいます。だから、「孤独」になる前に解決することができるのです。僕が、加害者になるという考えが浮かばなかった一番の要因は、「孤独ではない」ということだと思います。

この経験を通して、僕は、「明るい社会」について大切なこととは何かを考えました。

一つ目は、犯罪が起きない社会にすることです。犯罪が起きる原因が「孤独」なのであれば、誰かが側にいることが大切です。誰もが誰かに寄り添う優しい社会を作ることが必要です。

二つ目は、罪を犯してしまった人の社会復帰についてです。罪を犯し、罪を償った人が再び刑務所に戻ってしまう人が多いと聞いたことがあります。とてもつらい現実です。そうならない社会にするためには、周りの人たちの理解が必要です。相手を受け入れる寛容な社会になることが必要なのです。

犯罪や社会について考えることは、言葉で言うほど簡単なことではありませんでした。実際には、難しい問題です。ただ、一人ひとりが考える機会があることはとても重要なことだと思いました。誰もが安心して生活できる社会、誰もが誰かに寄り添うことのできる優しい社会、明るく未来輝く社会になることを心から願っています。

「あいさつで地域をつなぐ」

南中学校 三年 曾根 一陽

私は登下校中、沢山の人とすれ違います。当たり前のことではあるのですが、挨拶をします。挨拶を交わすことで、地域のつながりを感じています。

私は自転車通学です。さっと通り過ぎるだけなのに、近所の方は私に気付くと、わざわざはたけ仕事の手を止め、「お帰り。気を付けて帰ってね。」と声を掛けてくださいます。私はその時、すごくうれしい気持ちになります。なぜ、通りかかっただけの私に声を掛けてくれるのだろうと不思議に思えました。しかし、その声掛けを無視するわけにもいかず、返事をしていました。最近、ただ返事をするだけだったのですが。そんなことを繰り返すうち、知り合いになり、私からも気軽に声をかけられるようになりました。今ではご近所みんな顔見知りです。いつもの時間にいつもの場所で出会うご近所さん。たまに会えないときは、「あれ、今日はどうしたんだろう」と寂しい気分になります。最近、私の家の近くにはどんどん新しい家が増えています。それに伴って、小さな頃からの顔見知りの人だけでなく、知らない人も増えてきましたが、自分から挨拶をして、コミュニケーションをとっていきたいと思います。こうしてご近所みんなが知り合いになっているから、地域のために協力し合うことができるのだと思います。

私が住んでいる地域では、年に三・四回、自治会が主体となって行う資源回収があります。資源を集める場所が、数ヵ所指定されており、自治会員の人が、そこに資源を持って行くのです。それを回収するのは、ごみの回収業者の方ではなく、自治会のボランティアの方たちです。朝早くから、私たちが出した資源を車に乗せ、自治会内を走り回っているのを何度も見かけました。

紙の資源は、少しでもけっこうな重さがあります。私は、自分の家の資源を回収場所まで持っていくのを手伝っています。元気いっぱいの中学生の私でも、大変だと思う重さです。自治会の中には、回収場所まで運ぶのさえ大変な方もいらっしゃるでしょう。それを集めてくださることは、大変な作業で、とてもありがたいことだと思います。私は感謝の気持ちを込めて、集めてくださる方にお礼を言うことにしました。「ありがとうございます」。回収場所にもっていった時交わすたった一言ですが、ボランティアの方々に笑顔が広がり、私まで笑顔になりました。これをきっかけに、私の名前を覚えてくれ、道であったときにも、挨拶を交わすようになりました。

自治会の活動はこれだけではありません。暗い道でも安全に歩けるよう、街灯を設置するよう働きかけてくださいました。私たちが安全に登下校できるよう、見守り隊として、いろいろなところに立ってくださいしています。学校からの連絡にも、不審者が出たという内容のものがたくさんあります。私の登下校で出会っ

たらと思うと不安になります。私の住んでいる地域は、辺り一面田んぼや畑です。人通りはあまりないと思いそうですが、畑仕事をしている方が、あちこちにいらっしゃいます。散歩をしている方もいます。いろいろなところに人目があるのです。もし何かあっても、叫んだら助けに来てくれる、困っていたら気付いてくれる人がいるという安心感があります。

挨拶をするだけのことなのですが、笑顔をもらったりあげたりすることができます。日常生活の中でも、相手を知ること、お互いを気に掛けることができるようになります。こういうことを通して、地域の絆が深まってくるのだとおもいます。地域の人がつながり合って、犯罪のない、犯罪に巻き込まれることもない社会ができていくのだと感じています。

「ボランティアと安全な町づくり」

南中学校 三年 土肥 柚

私は犬の散歩をするのが日課です。その時気をつけていることがあります。暗くなる前に行くこと、なるべく人通りの多いところを通ることです。日々のニュースでも、誘拐や傷害事件など、物騒な事件が報道されています。私の身にもいつ起こるかわかりません。私の家の周りにも、雑草がうっそうと茂っている空き地や、沢山のごみが放置された空き家など、怖いなと思う場所があります。そばを通るときは、なんだか不審者が潜んでいそうで怖くなります。そういう場所がきれいになれば、見通しも良くなり、不安な思いをする人が減るだけでなく犯罪の可能性も減るではないかと思うのです。きれいになれば……こう思うとき、私は小学校四年生の時のことを思い出します。

私が河川敷で犬の散歩をしている時でした。地域の人が一生懸命にごみ拾いをしている姿が目に入ってきました。みなさん一生懸命に作業をしていました。私は毎日そこを通るのに、ごみが落ちていたと思ったことはあまりありませんでした。今思えば、みなさんの努力で、きれいな河川敷になっていたのかもしれませんが。だから今、私は安心して犬の散歩をすることができていたのでしょう。でも、そんなことに気付かない私は、ごみ拾いなんて自分には関係ないことだと思っていた。

次の日、私は妹と河川敷に遊びに行きました。その日の川の状態は、水もなく、川の中程まで入っていくことができました。遊んでいるときに自分の目に入ってきたもの。それはごみでした。なんでこんなところに捨てるのだろうと、少し疑問に思ったものの、誰かが拾ってくれるだろうと放っておきました。一週間後、また河川敷に遊びに行くと、前と同じようにごみが落ちていました。「地域の人気付かないところにもごみは落ちてるんだな」と思いました。そこで私が思ったことは、気付いた自分が拾えばいいのだということです。私は妹に、「ごみがたくさん落ちているから、今日は遊ぶんじゃなくて、ごみ拾いをしよう」と提案しました。すると妹もうなずき、二人でごみ拾いをしました。私たちは、二袋のごみを集めることができました。といっても、小学生の二袋ですから大人の方に比べれば、ほんの少しです。でも、私たちのごみの入った袋を抱えているのを見た、地域の方は、笑顔で、「ありがとう」と言ってくださいました。その方も、ちょうど河川敷のごみ拾いをしに来ていて、私たちがごみ拾いをしている姿を見ていたのだそうです。私はこのとき、とてもうれしいのと、清々しい気持ちになりました。私がしたことが人の役に立つことを知った私は、これ以降、地域のボランティア活動に参加するようになりました。

幼かった私は、ごみ拾いをして褒められたことがうれしいという思いだけで

したが、今は、ごみを拾う、草刈りをするなどのボランティア活動が、地域の環境美化だけでなく、私たちが安心して暮らせる町づくり、ひいては防犯にもつながっていくということが分かってきました。私たちが、川の中でごみを拾っている姿を見てくださっている地域の人がいたということは、私たちを見守ってくれている大人の目が、いろいろなところにあるということです。私たちは、地域の方に守られているのです。

ごみが落ちていても、地域の人が拾ってくれるという人任せな考えではなく、自分がする。気付いた人が働いていけば、社会は良い方向に変わっていくと思います。犯罪に巻き込まれないように、犯罪が起こる環境を作らないために、小さなことかもしれませんが、私にもできることはあるはずです。今は守られるだけの私ですが、これからも人任せにせず、自分の行動する人でいたいです。そしてみんなが楽しく暮らせる社会であるために、安心安全な町作りに協力できる大人になりたいと思います。